

非常変災等における危機管理体制と教頭の役割

—武雄市内小・中学校での危機管理体制の見直しを通して—

佐賀県武雄市教頭会 武雄市立武雄中学校 宮崎 武司

1 主題設定の理由

近年、西日本を中心に大雨による災害が起き、危機管理面での大きな課題となった。

そこで、これまでの「危機管理マニュアル」を見直し、武雄市で統一した引き渡しに関わる判断の基準や「大雨・洪水の対応マニュアル」を作成したり、保護者や地域等との連携の在り方を再度検討したりすることで、児童生徒、教職員、保護者の防災への意識向上を図り、危機管理体制の強化を目指して、研究主題を設定した。

2 研究のねらい

非常変災発生時における児童生徒の引き渡しに関わる判断の基準や手立てを検証するとともに、保護者等との連携方法や中学校区内での小中連携、武雄市教育委員会などの行政との連携の在り方を探る。

その際、教頭として、教職員、保護者、地域と連携した体制作りの関わり方や児童生徒の防災意識を高めるために、職員にどのような指導や支援を行っていくのかを明らかにする。

3 研究の経過

- (1) 1年次（令和元年9月～令和2年8月）
「危機管理マニュアル」や「大雨・洪水の対応マニュアル」の原案作成。
- (2) 2年次（令和2年9月～令和3年8月）
引き渡し訓練の実施に向けての取組。

4 研究の概要

- (1) 1年次の取組
 - ① 研究の方向性
武雄市教頭研修会において、研究主題と内容等を決定した。
 - ② 武雄市教育委員会との連携
市教委へ市役所各課への連携協力を依頼し、教頭会に対し以下のような指導助言があった。
ア 「防災に強いまちづくり」を柱に取り

組むこと

- イ 令和元年8月の豪雨災害やそれ以外の災害時の課題を把握し、武雄市内小・中学校の管理職で共有すること
- ウ 武雄市で統一した「大雨・洪水の対応マニュアル」や引き渡しに関わる判断の基準を設定すること
- エ 防災・減災課と連携を図り、地域に応じた防災教育に取り組むこと
- ③ 「危機管理マニュアル」の確認
市内16校の「危機管理マニュアル」を確認し、次の課題を把握した。
ア 非常変災（大雨・洪水）のときに、児童生徒を下校させるための武雄市で統一した引き渡しに関わる判断の基準がないこと
イ 非常変災（大雨・洪水）に対応するための引き渡し訓練を実施していないこと
- ④ 「大雨・洪水の対応マニュアル」の原案作成、引き渡しに関わる判断の基準について検討した。
ア 「大雨・洪水の対応マニュアル」の原案作成

【「大雨・洪水の対応マニュアル」に含める内容】

- ・ 防災組織と情報伝達の流れ
- ・ 地域の状況を把握するための職員の分担
- ・ 校内における引き渡しの手順
- ・ 引き渡し経路図

イ 引き渡しに関わる判断の基準についての検討

【引き渡しに関わる判断の基準】

- ・ 今後、被害が拡大する恐れがないかどうか。
- ・ 下校時間帯に危険が迫ってこないかどうか。
- ・ 通学路を安全に使用できるかどうか。
- ・ 引き渡す保護者に危険が及ばないかどうか。

⑤ 引き渡し訓練のモデル作成

K中学校区における引き渡し訓練実施要項を検討した。

【引き渡しの訓練の実施要項に含める内容】

- ・訓練の目的
- ・保護者への周知
- ・関係機関との連携
- ・職員の役割分担
- ・緊急引き渡しカード
- ・保護者の送迎の経路図（児童生徒の引き渡し場所、保護者送迎経路等）

【共通理解事項】

- ・各中学校区で引き渡し訓練を実施すること。
- ・小中学校で兄妹姉妹がいる場合、原則として、小学校の児童を優先して送迎をしてもらうこと。
- ・地域の状況を確認するために区長や消防団などの関係機関への連絡が中学校区で重ならないように分担すること。

(2) 2年次の取組

① 関係機関との連携の確認

非常変災（大雨・洪水）の対応について、次の関係機関に協力を依頼した。

ア 武雄市教育委員会との連携

作成した「危機管理マニュアル」や引き渡し訓練の実施要項案についての確認依頼

イ 武雄市防災・減災課との連携

防災教育の実施と引き渡し訓練 時の指導助言

ウ 武雄警察署との連携

円滑な引渡し訓練のための指導助言

エ 地域との連携

- ・消防団の会合や区長会への参加、及び連絡体制の整備依頼
- ・児童生徒だけで下校させる場合の下校の見守りの協力依頼

② 教頭としての関わり方の検討

ア 危機対応チームの組織と職員の役割の明確化

イ 保護者、及び地域の方との連絡網と連絡方法の確立

ウ 関係機関との連携

危機対応に関係する地域の関係 機関との緊急連絡体制の整備

エ 防災教育の実施

武雄市防災・減災課や消防団等と連携した防災教育の実施

③ 引き渡し訓練の実施

K中学校区（小学校2校、中学校1校）において、武雄市防災・減災課、武雄警察署、消防団、区長会と連携し、保護者の送迎による引き渡し訓練を行った。

ア 成果

- ・職員、保護者、児童生徒とともに引き渡し訓練について確認することができた。
- ・職員の役割や関係機関との連携について確認することができた。

イ 課題

- ・道路の混雑を避けるための保護者への左折の協力依頼や送迎時刻の調整が必要であった
- ・緊急引き渡しカードの活用の仕方を検討する。

5 研究の成果と今後の課題

(1) 成果

- ① 「大雨・洪水の対応マニュアル」に含める内容について武雄市で統一を図ることができた。危機発生時の通報・指示系統の体制を確立することができた。
- ② いくつかの中学校区で、引き渡し訓練のモデルを基に、関係機関と連携して、引き渡し訓練を実施することができた。

(2) 今後の課題

- ① 「大雨・洪水の対応マニュアル」については、それぞれの学校の現状に適切に対応したものを作成し、引き渡し訓練を実施していく必要がある。
- ② 防災教育をどのように進めるのか検討し、引き渡し訓練と防災教育とを関係づけながら進める必要がある。
- ③ 安全教育担当等の関係職員への指導・支援を行い、継続した引き渡し訓練等の防災教育を行う必要がある。